



ロータリーは機会の扉を開く

2020-2021 国際ロータリーのテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

2020-2021 RI会長
ホルガー・クナーク
<ドイツ>



第1547回 アオギリ例会 令和2年8月4日(火)

『アオギリ例会』

12:00より高尾公園「被爆アオギリ二世」前にて

・藤澤健二会長あいさつ



善悪の判断が難しく、コロナ感染症、豪雨災害、地震など、大変な時代では有りますが、その中でも原爆は絶対いけない事だと言える。これからも二世のアオギリを育てながら平和への祈りを強くしたい。

・黙祷



『通常例会』

12:30より「例会場」にて

■ 点 鐘

12:30

■ ソング

君が代・奉仕の理想・四つのテスト

平澤理ソングリーダー



■ 会長談話 藤澤健二会長



1945年8月6日に広島に原爆が落とされてから75年目を迎えようとしています。本日は、高尾公園に植えた、アオギリの種から育った二世の前にて黙とうを有難うございます。

1945年8月6日、広島市の爆心地から約1.3キロ離れた旧広島通信局の中庭で被爆したアオギリは、爆心地側が焼けたものの、焦土の中で青々と芽を吹いたそうです。現在1973年に平和記念公園に移植され、今なお平和のシンボルとなっています。2013年5月に行われたロータリー世界平和フォーラムin広島を記念して、その被爆樹木アオギリの種から発芽させた苗木を、平和へのメッセージを持つ木として現地のクラブを通じて広島市より譲り受けました。なお、伊那中央ロータリークラブでは、2013年5月末に会員約20人が例会に合わせて作業を行い、樹木の成長と平和をともに黙とう…。矢野年度から始まり、今年で8年目を迎えます。因みに、その時の幹事は私でした。移植当時は30cm程度の苗木でしたが、瞬く間に見上げるほどに成長したアオギリに驚いています。

自分なりに少しだけですが、アオギリについて調べてみました。英語ではPhoenix Treeと呼ばれ、鳳凰(フェニックス)は昔から「聖人が世に出るときに現れる」と言われてきたそうです。また、中国では「鳳凰が住む」と言われていて、支援留学生でした戴安娜さんの出身地の南京市では街路樹として、アオギリが植えられているそうです。因みに、カカオの仲間だそうで、実はコーヒーの代用としても使われていたこともあるそうです。日本のアオギリは中国から奈良時代に渡来して、幹でも光合成を行うため緑色になっているそうです。なお、子どもの頃は、正月にはコタツで、花札、カルタ取りなどを楽しんだ訳ですが、花札のキリの札には、鳳凰と桐の葉が描かれていますが、いつの間にか日本では、アオギリからキリの葉にすり替わったのではないかと言う説もあるようです。桐と青桐とは、全く別の木です。不思議な話です。また、冬に花が咲かないのに桐の札は12月の札になっていますが、12月の札が桐になった理由として、もっともよく言われているのは『これっきりから取って、桐を最後にした』とも言われているとか…。これもまた、不思議な言い伝えでも有ります。

最後に、コロナ感染症、豪雨災害、地震など、大変な時代では有りますが、アオギリの神秘的な力にあやかり、いつまでも平和な時代であって欲しいものです。

いかがでしょうか？葉も種も大き目ですが、家の守り神として一本。植えてみませんか？ご家庭の歴史を何百年後に代わりに語ってくれるかもしれません。

以上、アオギリ例会、本日の談話とさせていただきます。

■ 入会式

・肥沼光彦会員あいさつ



この度入会を認めていただきました、丸紅伊那みらいでんき株式会社の肥沼 光彦(こえぬま あきひこ)でございます。どうぞよろしく申し上げます。

苗字の「こえぬま」も名前の「あきひこ」も、一度で正確に呼んでいただいたことがほとんどありません「変な」名前でございます。肥沼姓は、東京都下の東村山と埼玉県所沢の県境、秋津という場所に多く存在するようでございます。私自身は、父親が長年、信州大学理学部に勤めておりました関係で、生まれは「東京都」ですが、育ちは小さい頃から高校を卒業するまで松本市でございます。父親は農学部でも講義を持っておりましたので、小さい頃は時々父親に連れられて伊那にやってきておりました。この度ご縁あって伊那に住むこととなり、さっそく皆さまのお話になる言葉にたいへん親しみを覚え、じきに自が出てしまうのではないかと思います。

(以下は、あの場では申し上げておりませんが・・・)

6年前より丸紅株式会社に勤めておまして、それまでは国際協力機構(JICA)や政府系金融機関(国際協力銀行、海外経済協力基金)で、日本政府が発展途上国の経済開発を低利、長期で支援する、円借款などの融資を30年ほど担当してまいりました。昨年春までは、丸紅で西アフリカ、コートジボワールのアビジャンに4年間駐在しておりました身で、一応、フランス語が専門、パリにも駐在しておりますが、むしろアフリカ、中東各地で地を這う仕事を追う多数経験してまいりました。

ロータリークラブがこれまで培われた素晴らしい奉仕の精神にはとても及ばない身でございますが、今般担当することとなった地域密着型の電力サービス同様、微力ながら皆さまとともに地域のお役に立てますよう精進する思いでございます。重ねて、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

- ・襟章と会員バッジの授与 藤澤健二会長
- ・所属委員会は「出席委員会」「親睦活動・友好委員会」



- 慶 祝 8月誕生日祝い
- ・伊藤かおり会員 ・橋爪多津男会員

■ ニコニコボックス



◆藤澤健二

本日はアオギリの前でたくさんの方と黙祷をしてきました。肥沼光彦さんの入会を歓迎します。各所属委員長よろしくお願い致します。

◆宮下健

子供達3人が夏休みに入り通知表を持って帰って来ます。数字の評価で判断しなければならない先生も大変ですが、我が子のやる気スイッチが未だにどこにあるのか？わからない親も大変です。

◆井上修

昨年、広島に社員旅行で行きました。市電が網目状に発達していて通勤・通学・市民の足でした。驚いたのは、朝7時台から客の3割が白人でした。原爆記念館に来たオバマ効果とか。

■ 委員会報告

- ・8月18日（火）マレットゴルフ・納涼家族例会の案内 田中真人親睦活動・友好委員長



8月18日開催のマレットゴルフと納涼夜間例会について、まだ申込みされていない方のご参加をお願いします。

今回のマレットゴルフはコロナウイルス感染対策で羽広のマレットゴルフ場が未整備のため、会場を協議したところ過去に開催実績のある三峰川公園榛原マレットゴルフ場で開催することになりました。会場は日陰が無いため参加する方は熱中症対策（水分、塩分、帽子着用）をお願いします。

- ・「ロータリーの友」8月号紹介 加藤篤会員



まず初めにRI指定記事国際ロータリーホルガー・クラーク会長メッセージから(P3) 紹介します。

2020年を世界的なパンデミックや社会正義を求める声が高まるなど歴史変化の年と位置付けております。

ロータリーも変化し続ける世界を反映し、「奉仕」「親睦」「高潔性」「リーダーシップ」という中核的価値観を大切にしながら、「四つのテスト」(① 真実か どうか ② みんなに公平か ③ 好意と友情を深めるか ④ みんなのためになるか どうか)を実践してゆくことで世界を導くことができるとしております。なお、この「四つのテスト」に関連したコメントがバックページ12 (P61) から始まる「友愛の広場 (FRIENDSHIP PLAZA) の中で、「成田空港南RC 鈴木様」が「『四つのテスト』が人生の道標」としてコメントを寄せています。この「四つのテスト」がシカゴ・ロータリークラブの会員だったハーバート・テラー氏が経営難の企業を立て直す目的で考案した会社や社員の行動規範を、ロータリーが採用・改案して現在に至り、自身の経営の道標としていると紹介しております。(バックページ16・P57)

余談ですが、「四つのテスト」に類似したものにアメリカYELL大学の「三つのYES」があります。この「三つのYES」も経営に役立つとされております。「三つのYES」は①目標を設定していますか? ②その目標を書き留めていますか? ③その目標を達成するための計画は立てていますか? というもので、この設問全てにYESと回答した卒業生は全体の3%に過ぎなかったが、20年後にその3%の皆さんが調査した卒業生の総資産の内97%を占めているというものです。

話を会長のメッセージに戻します。

会長は、また、ロータリーに成長が必要ということは誰もが認識することであるが、会員数などの数値にとらわれがちになることでなく、持続的成長が大切であると伝えております。昨今は、2015年国連サミットで採択された「SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)」を採択し企業活動等に取り入れている会社も増えました。長野県でもSDGs推進企業登録制度を開始しており現在377者(第1期から第4期登録者までの累計)が登録されております。それだけ多くの社会生活を営む人や法人が持続的成長の大切さを認識している証拠と思われ、会長は各クラブにおいても戦略会議の開催の重要性を訴えております。

さらに、変わりゆく社会に迅速に適応し続ける方法を模索する試みに胸躍る気分であり、しかしながら、ロータリーの変わらない部分、今後も変わらずにあり続ける部分、すなわち「友情」「ネットワーク」「倫理」「奉仕」こそがロータリーの魅力であるとしております。

クラーク会長はロータリーの創始者ポール・ハリスの言葉「時には革命的にならなければいけない。」を引用し、今がまさにその時であると述べております。「機会の扉を開く」という会長テーマが、ロータリーが中核的価値観を守りつつも変化を取り入れ、より強固な存在となるとメッセージで伝えております。

次に8月号でもう一つあるRI指定記事の2020-2021年度ロータリー財団管理委員長K.R.ラビンドランのメッセージをお伝えします。(P46)

このメッセージの中で、新型コロナウイルス感染症パンデミックがロータリー財団に与える影響は手にも負えない「問題」ととらえていました。

しかし、結果として6月4日現在、財団は208件520万ドル(約560百万円)の災害救援補助金と、169件1,380万ドル(約1,490百万円)のグローバル補助金の提供ができ、個々のロータリアンによる寄付金と財団の資金を活用してプロジェクトを生み出すことができた伝えております。

ロータリアンは一風変わった人たちの集まりであり、よりよい世界という大きな夢を抱く理想主義者の集まりであるがゆえに、パンデミックによるロックダウン等の音を上げるような「課題」にも果敢に立ち向かえることができたとしております。

「問題」と「課題」は全く別物であり、人は時として「問題」を過大評価して問題を解決する自分の能力を過小評価することがありますが、ロータリアンは、プロジェクトの準備と実施の方法を変え、コミュニケーションをする方法を変えてこの「課題」に取り組み、力強さと自己犠牲の精神と思いやりを持って尽力しました。その結果、ロータリー財団は未来に向き合うための希望とインスピレーションを新たにすることができた伝えております。

気になったのは同じページ(P46)の国際大会へのカウントダウン「街を見守る超高層ビル」の記事でした。2021年6月12日から16日に開催が予定されている国際大会の会場となる台北にある、高さ509.2mの超高層ビル「台北101」の紹介記事です。「台北101」は地上101階建てですが、101には

完璧を示す100よりもさらに一つ上をいくと意味が込められていると紹介されています。ドバイの超高層ビル、ブルジュ・ハリファ（高さ828.0m・206階建て）に抜かれるまでは世界一の高層ビルでした。

そこで私がさらに気になったのは、東京渋谷駅から道玄坂に向かう交差点（渋谷駅前交差点）正面にある「渋谷109」でした。ご存知のように109階建てではありません。ちなみに、地上7階、地下2階の建物で、現在のテナント数は111店舗です。昭和54年開業当時は「109（いちまるきゅう）」と呼んでいましたが、ちょっと前は若者たちが「マルキュー」と読んでおりました。この109は、正式名称は「道玄坂共同ビル」というそうですが、東急の完全子会社が展開運営することから、「10（とう）9（きゅう）」を109と語呂合わせしたと言われております。また、当時営業時間が午前10時から午後9時までという意味も込められているそうです。なお、現在は新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止のため午前11時から午後9時までの営業時間となっております。

余談でしたが、裏表紙にも「エネルギーな台北を楽しもう」「イノベーションと伝統が生きる場所」と国際大会のPRが掲載されておりますので、コロナが一日も早く終息し、ハワイでの国際大会がバーチャル国際大会となったようなことがないよう無事開催されることを祈念します。

なお、このバーチャル国際大会については8月号18ページから21ページに掲載されております。また、YouTubeでもバーチャル会議の様子を見ることができます。しかし、英語でアップされておいて何を話し合っているか私は理解できませんでした。

もうひとつ、来年の国際大会会場となる台湾にほんの少し関係した記事は、特集「私がロータリーを続ける理由、そしてその魅力」(P7～P11)にありました。8月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」とされており、この特集記事に7名のロータリアンが自身のロータリーに対する思いを寄せております。寄稿のベースは、これまでいろいろな問題に直面しながらもロータリーを続けてきた会員に、なぜ退会を考えたのか、それでも踏みとどまったのはなぜか、その思いとなっております。その中で、群馬県桐生南RC星野尚香会員の「人徳者になるための道場と気付いた日」の中で、JCの先輩に勧められ会員になったもののいつ辞めようかと考えていた折に、グローバル補助金事業の式典に参加すべく台湾を訪問し、そこで地元ロータリークラブの皆さんの細やかな気遣いと優しい笑顔に触れ、このRCの人たちとつながりのある人生を送りたいと思ったのが踏みとどまった理由の一つとしております。

次に「最も重要な局面で超我の奉仕を実践する職業人たち。The World Stopped. They Didn't」では、医療従事者2名・高齢者施設管理者・クルーズ船乗務員・公共事業職員、そして藤澤会長と同じアメリカ、アーカンソン州の葬祭業の方、計6名のコメントが寄せられております。

コロナ禍の中で、それぞれの皆さんが、自身が感染するリスクや恐怖と闘いながら大切な人の命や生活を守る姿に心打たれます。藤澤会長も同様の思いで葬儀の執り行いに尽力されているのだと拝察します。

バックページ4 (P69)からは、茨城大学名誉教授小泉様が、「岡倉天心の転換点～五浦（いづら）という場のはたらき～」と題し、横浜育ちの岡倉天心がなぜ交通の便も不便な茨城県五浦へ居を構えることになり、この五浦が岡倉天心や日本の美術史へ果たした役割などを紹介しております。

岡倉天心が一度案内されただけで惚れ込み居所を定めた五浦こそが、五浦に招いた横山大観、菱田春草、下村観山、木村武山を登場させながら日本美術に東洋の理想を取り入れた功績の源と紹介しております。岡倉天心が建設した六角堂は東日本大震災の際に流出しましたが、翌年には創建当時の姿で再建されており、コロナが落ち着けば訪れたい土地の一つになりました。

また、友愛の広場のバックページ13 (P60)には埼玉県立所沢高校のインターアクトクラブ認証状伝達式の記事が掲載されています。その中で、インターアクトクラブ中島会長の「本当の意味の自由を知り、今後のインターアクトがどう変化するかも自由であるが、進化は続けなければならない。そして、子供たちに小さくてもよいから拾い上げることができるチャンスを落としてあげてほしい。」と訴える感動的な挨拶が紹介されております。伊那西高校IACと関りがある当クラブも素敵なクラブであり、今後も進化し続けながら継続支援してゆくことが大切であると感じました。

最後に、コロナの影響で、多くのクラブが活動の制限を受けております。今月号の記事にもコロナの大きな影響を受けていることが分かります。一日も早いコロナ終息を願い8月号の紹介とさせていただきます。

■ 出席報告

会員数47名 出席免除会員5名 長欠会員2名 本日出席者27名 事前メイク2名
出席率72.50% 前回出席率 修正なし

■ 幹事報告

多田浩之幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 理事会報告

多田浩之幹事

1. マレットゴルフ・納涼家族例会について
2. 第28回インターアクト地区大会 実行委員会組織図について
3. たかずやの里 評議員について
4. 年間行事予定の変更について
5. コロナ禍での例会開催要領について
6. 奉仕プロジェクトチーム案について
7. 信大留学生支援金について
8. RC事務所の夏期休業について
9. 8月の行事予定並びにメイクアップ扱いについて
10. 職員手当（給与他）の検討について
11. その他

■ 奉仕プロジェクト委員長あいさつ

宮下健奉仕プロジェクトチーム委員長



理事会報告でもありましたが、奉仕PT委員長と云う事で、入会4年以内を対象にした委員会を立ち上げました。「ロータリーの言行は四つのテストに照らしてから」とあります通り、第一に考えるのは、PT委員会で議論を重ね、全会員に納得性のある奉仕活動を計画すると云う事です。「好意と友情を深められるか」でもあります。

第二は寄付をする事で効果が期待出来るのか・・・という事でもあります。すなわち生きたお金になるかと云う事です。「真実かどうか」と成ります。

第三は上伊那全体を考えると云う事です。伊那市の基金へ寄付と言った考えも有りましたが、当然、箕輪や南箕輪村の会員も居る中で、「みんなに公平か」「みんなのためになるかどうか」です。

以上を踏まえ実行委員会を立ち上げます。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

8月18日(火)

14:00～ マレットゴルフ大会(三峰川榛原河川公園マレットゴルフ場)

18:30～ 納涼家族例会(海老屋料理店)